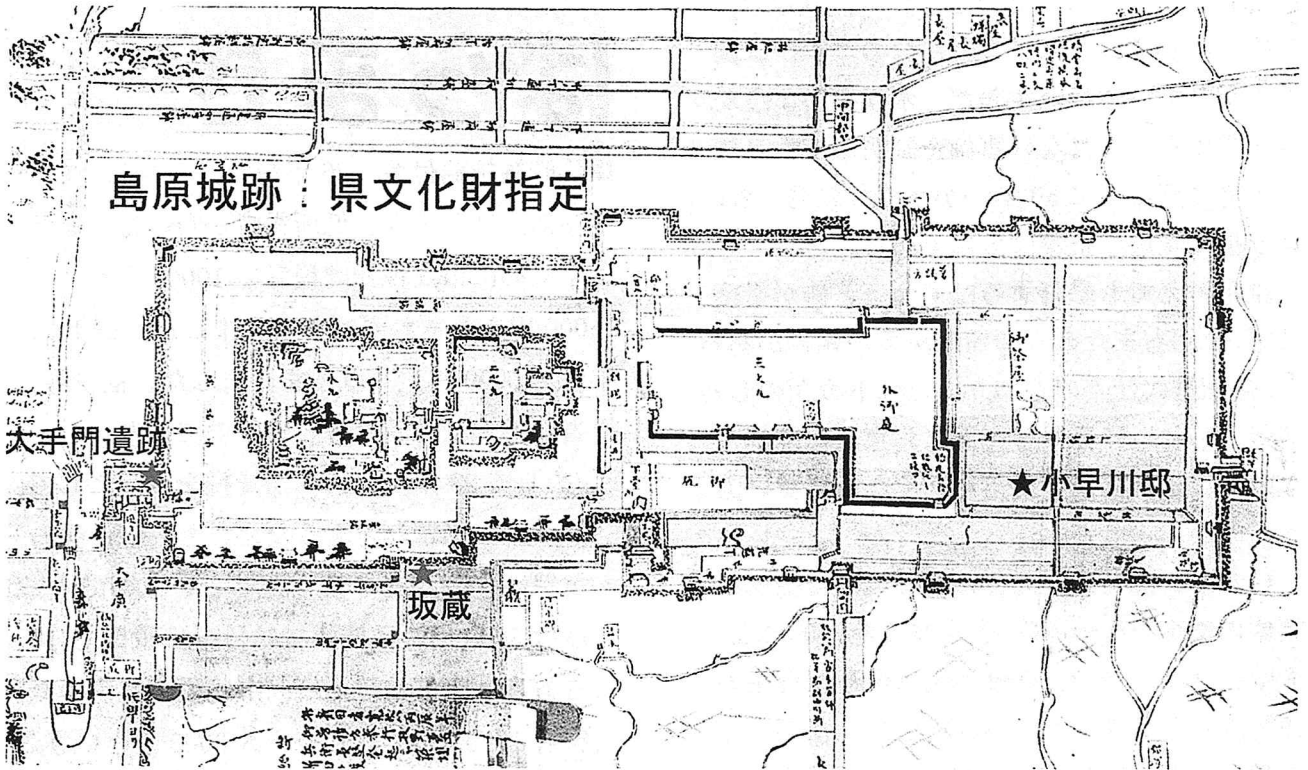


観光一元化で島原城はようになる



守れるか、文化財と本物の歴史

その城郭の結構は国宝級と言われる『島原城跡』は長年文化財としては無冠の帝王だった。その島原城跡がこのたび県の文化財に指定された。島原城を通じてまちおこしに奔走してきた者として、この度の文化財指定を素直に喜ぶたいと思う。

島原城を含めた観光の一元化の話があって、民間活力を入れて行こうという方向に向かっている。本当の意味で末永い観光振興を考えれば、島原城だけで完結している今より可能性を感じる。

しかし今の日本の財界も政界も、目先の利益追求に明け暮れ数年がよければその先は知ったこっちゃないというデタラメな時代に突入している。原発推進政策がその象徴だ。

まちづくりで言えば、ダイエーグループであれイオン夢タウンであれ、結果として、街を破壊し、インフラ整備を役所におっかぶせて、自企業の利益だけを追求してきた。

島原城に民間活力という時、ともすれば、この短期決戦型の目先利益追求（結果として将来につけを回すこと）を良しとする風潮が気になる。残念ながら多くの市民は目先の快適追求に汲々として、例えば大型ショッピングセンターが郊外に進出し（農地も街も破壊される部分が見えず）買い物の選択肢が増えることを良しとしてしまう。

だからこそ将来を見極める政治家や財界トップが求められる。まちづくり哲学が必要なのだ。

そういう意味で、今回の島原城文化財指定は、島原観光に目先の利益追求ではなく「哲学」が必要なこと、文化財への誇りを持ち続け、本物志向でなければならないということを再認識させるきっかけとなるのではないかな。

長い目で見れば、本物の歴史を残すことの方が、観光地としても生き残っていけるのだと訴えたい。

引き続き、島原城を応援したいと思う。